

平成21年度大相撲名古屋場所救護支援活動

(医)米田病院

児山将之 羽生 優 米田 實

【はじめに】

昨年、我々は本学会にて当院の柔道整復師が中心となって行っている大相撲名古屋場所での救護活動について報告した。調査結果として施術人数は年々増加傾向にあり、施術内容についてはテーピングが最も多く、傷害部位は下肢に多い結果であった。

今年度は救護体制に当院の看護師が加わり、創傷にも対応できる体制を整えた。今回は施術時期や各番付別の来室人数など、昨年と異なった視点で調査を行ったので報告する。

【調査項目】

1. 来室者数、2. 施術内容の内訳、3. 傷害発生時期、4. 施術時期、5. 各番付別の来室者数について調査を行った。

【結 果】

1. 来室者数 (図1)

昨年度は来室者数433名、施術対象者数338名、施術人数172名であった。今年度は来室者数388名、施術対象者数372名、施術人数153名であり、昨年度よりも来室者数は減少したが、施術対象者数には増加がみられた。

2. 施術内容の内訳 (図2)

昨年度はテーピング194名、アイシング101名、包帯固定24名であった。今年度はテーピング190名、アイシング146名、包帯固定18名であった。特徴としては昨年度よりもアイシングの需要に高

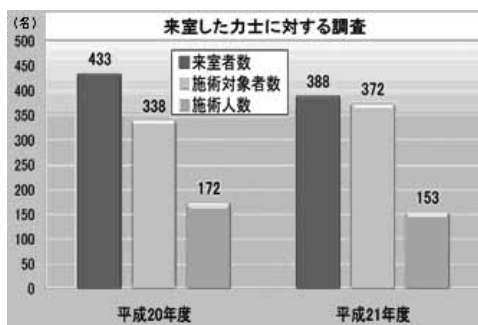


図1. 来室者数 (昨年度との比較)

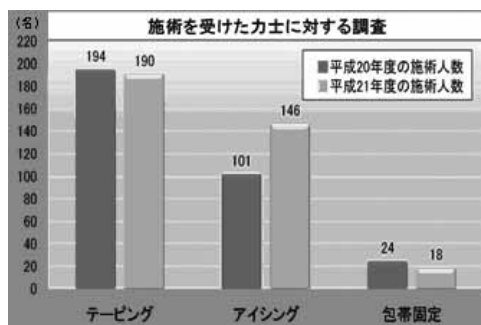


図2. 施術内容の内訳

い傾向がみられた。テーピングや包帯固定の需要に関しては大きな変化はみられなかった。

3. 傷害発生時期 (図3)

施術を受けた372名のうち先場所の取り組みで受傷した力士は55名 (約15%)、名古屋場所開催前の稽古中で受傷した力士は136名 (約36%)、名古屋場所取り組みで受傷した力士は181名 (約49

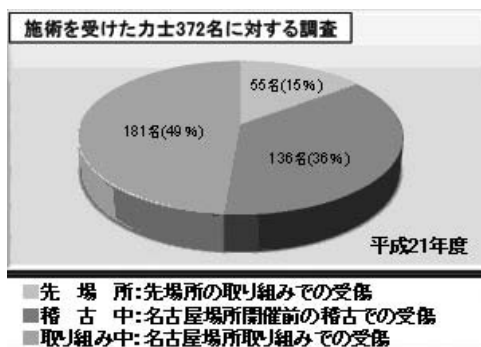


図3. 傷害発生時期

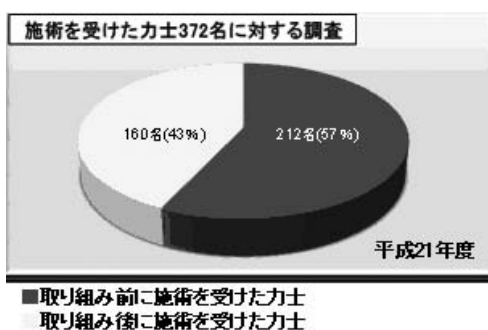


図4. 施術時期

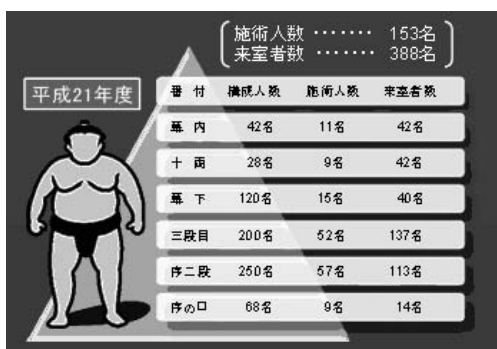


図5. 各番付別の来室者数

%)であった。

4. 施術時期 (図4)

施術を受けた372名のうち、取り組み前に来室した力士は212名(約57%)であり、テーピングの希望者が多かった。取り組み後に来室した力士は160名(約43%)であり、アイシングの希望者が多かった。

5. 各番付別の来室者数 (図5)

平成21年度名古屋場所で施術を受けた力士153名の内訳は幕内11名、十両9名、幕下15名、三段目52名、序二段57名、序の口9名であった。

最後に今年度は昨年度と同様に約30万円の救護材料費が必要となった。昨年度までは当院の全額負担であったが、今年度は日本相撲協会大相撲名古屋場所の全額負担であった。

【まとめ】

- ・平成21年度大相撲名古屋場所での救護活動について報告した。
- ・本年度は看護師も参加し、創傷にも対応可能な救護体制を整えた。
- ・施術内容では昨年度と比較しアイシングの需要が増加していた。
- ・傷害発生時期としては名古屋場所取り組みでの受傷が多い結果となった。
- ・今年度の救護材料費は日本相撲協会の全額負担であった。